場所			分類			被ばく低減対策事例集	
原子炉建屋内	RB	Y，G	1，2，3，5	(1)	時間		
タービン建屋内	TB			(2)	距離		
R ZONE	R			(3)	遮へい		
Y ZONE	(Y)			4	線源の除去		
G ZONE	(G)			(5)	遠隔、ﾛﾎﾞｯﾄ化		
その他 ()	Z			6	汚染拡大防止	番号	
				7	その他		

内容	建屋ギャップ部止水工事における被ばく低減への取組み			
作業場所	4号機原子炉建屋（屋外）			
概略	作業工程の分析を行い、高線量エリアでの作業を最小限の人員で実施できるよう体制を構築			
評価 (定性・(定量))	効果		対策前	対策後
		被ばく線量(mSv)	15.1（推定）	12.5（実績）
		人工数(人日)	684（実績）	684（実績）
事例詳細				

【概要】

・ 建屋間ギャップ部において止水工事を実施するにあたり、施工ステップごとの人工や作業時間、及び被ばく線量を分析した。その結果によると、全工程に占めるボーリング削孔の割合が大きいことから、この作業に対する被ばく低減対策を重点的に実施して、その効果を評価した。

【被ばく低減対策】

・ ボーリング削孔に従事する作業員の役割等を整理して、高線量エリアに滞在する必要がある最小限の人員を選定し、極力、低線量エリアに退避するような作業手順と行動マニュアルを策定した。

・ 低線量エリアから作業状況を監視できるシステムを整備し、トラブル等の発生に備えた体制を構築した。

【対策の効果】

・ ソフトウエア及びハードウエアの対策を講じたことで、被ばく線量を約17%低減させることが出来た。

・ 更に、作業床を架設して線源からの離隔を確保したり、作業床を鉛板マットで囲ったりしたことで、複合的な被ばく低減対策を図った。

低線量エリアから作業状況を遠隔監視している状況

編集：大成建設株式会社